

3 家庭訪問のポイント ～ 「連続3日目」 ～

「聴く」「伝える」「見る」



本人が対応

保護者が対応

聞く

○家庭での過ごし方

朝の様子・昼の様子・夜の様子

○体調

「具合はどう？」
「病院に行った？」
「ご飯は食べられた？」

○生活リズム

「何時に起きた？」
「夜は眠れた？」

○気になること・心配なこと

「何か気になることや心配なことはある？」

聞く

○家庭での過ごし方

朝の様子・昼の様子・夜の様子

○体調

「どんな具合ですか？」
「受診結果はいかがでしたか？」
「食欲はありますか？」

○生活リズム

「何時におきましたか？」
「夜は眠れていますか？」

○気になること・心配なこと

「体調面以外、〇〇さんの様子で、気になることはありますか？」

見る

○身なり

- ・体や衣服の汚れや傷はないか。
- ・寝巻のままか、着替えているか。

○顔色・表情

- ・疲れた顔ではないか。
- ・面談にストレスを感じていないか。

見る

○身なり

- ・服装や化粧

○顔色・表情

- ・疲れた顔ではないか。
- ・面談にストレスを感じていないか。

伝える

○明日の連絡

時間割・持ち物

○気持ちに寄り添う声かけ

「吐き気がひどかったんだよね。
辛かったね。」

○安心感をもって登校できる声かけ

「〇〇さんのこと、みんなが心配してたよ。」

「先生も〇〇さんがいなくて、寂しかったよ。」

「待ってるよ。」

伝える

○明日の連絡

時間割・持ち物

○ねぎらいと感謝の言葉

「お忙しいところ、ご丁寧にありがとうございました。」

《ポイント》

子どもの衣服や体を観察することで、家庭の養育環境を推察することができます。



4 家庭訪問の留意点 ～ 「学校に行きたくない。」と言っている場合 ～

複数（2人が基本）で訪問する。

ねらい：事実の聞き逃しを避ける。対応の失敗を避ける。誠実な対応を示す。

【心構え】

- 適切な服装で訪問する。
- 面談の時間をとってくれたことへの感謝を示す。
- 保護者にとって、わが子は世界一かわいい存在であることを忘れない。
- 学校内のストレス（学業・教師との関係・仲間との関係）を主訴としている場合、真摯に受け止める。

（P. 「保護者の訴えの聴き方、気持ちの支え方」参照）

《ポイント》

複数訪問が相手にストレスの場合も。「学年主任と2人で伺おうと思うのですが、いかがですか。」などと確認しましょう。



時間をかけて傾聴する。＝相手の主訴をしっかりと理解する。

【心構え】

- 正しく、丁寧な言葉づかいで話す。
- しっかりメモを取る。「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「なぜ」「どのように」
- 「事実」か「主観」か区別して聴く・メモする。

《ポイント》

「傾聴」はただ黙って聴くことではありません。相手の表情をよく見ながら、相槌を打ったり、うなずいたりしながら、相手の言葉を繰り返したり、気持ちをくみ取る言葉を伝えながら聴いていきます。



確認できている事実だけを回答する。（個人的な考えでの回答、曖昧な事実の回答はしない。）

【心構え】

- 「共感的理解」をしても、むやみに「同感」しない。
- 良し悪しの裁定をしない。

たとえば、「なるほど、その部分に腹が立ったのね。」は共感的理解です。「それはあなたが言うように、相手のしたことがひどいわよね。」は同感です。事実が不明な時点で、同感してはいけません。



今後の見通しを示す。＝チームで対応すること。周囲の子どもを含め、詳細に事実を確認すること。本人からも何度か聞き取りを行うことがあること。進捗状況を報告すること。

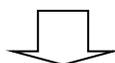
【心構え】

- 学校が組織として丁寧に対応していく姿勢を示す。

5 保護者の訴えの聴き方，気持ちの支え方

保護者の不安と心配は大きく，解決を急ぐあまり犯人探しをする傾向にある。

- ・ 学校生活，級友や教師とのトラブルが原因ではないかと疑うことが多い。
- ・ 子どもからの訴えは大きく受け止めがちで，教師への風当たりは強くなる。
- ・ 保護者も動揺しているので，普段はごく普通に受け入れられていたことでも，違って見えたり考えたりする。



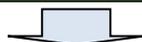
見方・受け止め方がずれていると思っても，弁解したりすることはとりあえず抑えて聴くようにする。

- ・ 学校，教師の立場を守ろうと弁解をすることは，逆効果になる場合が多い。
- ・ 保護者の気持ちを受容した方が，保護者は変わりやすい。

6 家庭訪問が終わったら ～ 管理職を含めた情報共有と速やかな対応 ～

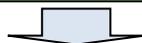
報告・共通理解・連携

管理職に報告。教職員で情報共有。必要に応じてPTA役員，教育委員会，関係諸機関と連携。



事実確認

当該生徒や周囲の生徒，教職員に事実確認。事前に確認する事項を共通理解した上で，チームで対応。



誠意をもって，迅速に対応

明らかになった事実に基づいて回答。当該生徒や教職員に非がある場合は謝罪。事実誤認や不当な要求には毅然と対応。

- 一人だけで対応しようとするのがトラブルのもとになります。速やかに管理職に報告し，必要なメンバーによるチーム対応を行うことが肝要です。
- 詳細な事実確認が大切です。周囲の子どもや教職員などからも情報を集め，客観性を高めます。
- 不安を抱えた保護者を待たせることは，学校に対する不信感を深める原因になります。進捗状況を含め，スピード感をもって報告していきます。

7 留意事項 ～ ガイドブックがすべてではありません ～

1 児童生徒理解とレポート

(1) 先生と話すことを待っているか。

「先生とたくさん話したい子」「先生と話すことで安心する子」ばかりではありません。「一度にあれこれ聞かれるのはうざい。」と感じる子もいます。

(2) 生活リズムと欠席との規則性

例えば、月曜日になると欠席がちの子どもがいたとしても、それがすべて「不登校」になるとは限りません。週末に激しいスポーツをしており、その疲れが原因になっている場合もあります。そのよし悪しは別として、体を休めることで翌日から元気に登校できているなら、毎回、根掘り葉掘り理由を聞かれるのはストレスになります。登校時に声をかけ、一緒に改善策を考え、アドバイスしてやるのが肝要です。

2 保護者とのレポート

欠席を心配し、いろいろ質問されることを「うちの子のことをとても心配してくれるいい先生だ。」と受け取る方もいれば、『『頭がいたい』だけだって言ってるのに、私の言うことを信じないのか。』などと受け取る方もいるかもしれません。実際に些細な受け止め方の違いで、トラブルが生じたケースがあります。

それを避けるには、何より日頃からの保護者とのレポートづくりが大切です。子どもの良さや頑張りをこまめに伝え、常に誠意をもった対応を心掛けましょう。

3 大切なのは「想像力」と「感受性」

言葉の使い方には注意を払うべきです。特に相手の顔が見えない電話においては、自分の言葉を相手がどのような気持ちで受け止めているか、想像しながら話すことが大切です。

また、相手の言葉の小さな変化を感じ取る、敏感な感受性のアンテナを持ちたいものです。

体調不良を理由とした欠席連絡でも、保護者が話す「間」や「声のトーン」に、「もしかして」と感じる場合もあるはずです。また、細かな表現にも読み取れることがあります。

(1) 「逆接」や「あいまいな表現」には、保護者の不安・心配が

(例) 「熱はないんですが・・・」(逆接)

「ちょっと(なんか)おなかが痛いって言うんです。」(あいまいな表現)

(2) 児童生徒理解に基づいた質問

たとえば、週末の激しいスポーツの疲れから、月曜日の欠席が目立つ子どもであれば、「疲れが出ましたかねえ。」とこちらから聞いてみることも有効です。

「ええ、そうみたいです。いつもすみません。」かもしれませんが、「うーん、言わないんですけど、何かあったみたいなんですよね。」との答えが返ってくるかもしれません。

また、欠席する以前で、子どもの様子に心配な点が認められていたなら、「昨日、少し元気がなかったような気がしたのですが、何か言っていないませんでしたか。」と聞くこともできます。